



© Jan Hulsegege en Ad Verheul, Ede, 1987
Snoezelen, another world

日本語版の序文

スヌーズレンの発想は過去40年以上にわたり、世界的現象として発展してきました。Googleで、“Snoezelen”を検索すれば、26か国語で30万件以上がヒットします。

私の同僚であるヤン・フルセッヘと私が1974年に、オランダのエデにあるハルテンベルグセンターでスヌーズレンの第一歩を踏み出した時、私たちはこのようにシンプルな活動が世界的に知られる現象になるだろうとはまったく想像もしていませんでした。

私たちは重度知的障がいのある人々の「受身的世界」、一日中ベッドで横たわっている以外ほとんど何事も起きない世界を見て、気付かされました。このような人々の「生活」エリアは、非常に重い障がいのある人々すべてにとって、まったく刺激がない病院のような環境でした。私たちは、この受身の世界をもっと面白くする簡単な解決策を探すことからスタートしました。こうして、重度の知的障がいのある人々のために初めてのスヌーズレンが考え出されました。

1980年代の初めに、別のグループがスヌーズレンに興味を持ち始めました。この歩みは、特に認知症の高齢者のための24時間介護施設で加速的に発展しました。現在では、知的障がいや認知症の人々におけるスヌーズレンの効果に関する多くの科学的研究が世界中で行われています。結果は非常に良く、特に一般的に見られる行動が極端に減少しています。患者が周りの環境に关心を持つようになり、居住者とスタッフとの間のコミュニケーションが増え、攻撃的な行動が減る傾向が見られていることから、より薬物療法によらない方法がとられています。

非常に重い精神障がいのある人々の生活に用いられるスヌーズレンは、この標的集団に対しての日々の活動（作業療法）を発展的に行うようにスタッフを勇気付けます。このことは人間の可能性に関する専門家の見解を変えました。

また、スヌーズレンが、日常のプログラムの中に溶け込んだ活動として採用されている部門における職員の病気は、他の部門よりも大幅に少なくなり、職員の仕事に対する満足度がより高い傾向にある、という予期しないプラスの効果を示す発見がありました。

多くの国々において、知的障がいや認知症になっている人々のためのケアセンターでは、スヌーズレンが毎日のケアの自然な構成要素として完全に溶け込んでいます。

およそ40か国で、ほぼ18の大学も参加して行われている科学的研究が国際的な力強い協力の下で進められています。インターネットとISNA - MSE（国際スヌーズレン協会／多重感覚環境）の年次国際会議の会合で交わされる研究成果は、非常に多くのケア提供者とその他の専門家にスヌーズレンへの熱い思いを強くする要因となっています。

本書は、さらに深い知識を得ようとしているすべての人々にとって、1つの指針となるものであり、また日々の実践の中にスヌーズレンを取り入れるためのガイドラインです。本書はスヌーズレンの活動における理論的な根拠を示していますが、また多くの実践的な情報も掲載しています。本書の初版は1986年にオランダで出版されました。現在に至っても、スヌーズレンの卓越した基本的著作として認められています。

この度、姉崎弘教授が中心となって、*SNOEZELEN ANOTHER WORLD*を日本語版に翻訳していただき、日本語の中にスヌーズレンという言葉と認識を広めていただいたことに感謝を申し上げます。このことは必ずや、知的障がいや認知症の人々に対する日本のケアの中で、スヌーズレンが発展していくための絶好の機会を提供することになるでしょう。

本書の出版に続き、日本での国際スヌーズレン協会、ISNA-MSEの会議のいずれかで、または期間中にお会いできることを願っております。

オランダ、エデにて

2013年11月

アド・フェアフル
スヌーズレン共同創始者

監訳者まえがき

本書は、1986年にオランダで刊行された*SNOEZELEN EEN ANDERE WERELD* (Jan Hulsegge & Ad Verheul, Uitgeverij Intro, Nijkerk) の英語版*SNOEZELEN ANOTHER WORLD* (1987) の全訳である。この度、日本語版である本書、『重度知的障がい者のここちよい時間と空間を創る スヌーズレンの世界』(ヤン・フルセッヘ／アド・フェアフル共著) を出版できることは、わが国の福祉・医療・教育等の関係者にとって大きな喜びである信じている。

わが国では、1990年代以降、日本スヌーズレン協会や全日本スヌーズレン研究会などの団体が組織され、スヌーズレンの理念や概念などを紹介してきている。しかしながら、これまで創始者が初めて著した世界最初のスヌーズレンの著作*SNOEZELEN EEN ANDERE WERELD* が日本語に翻訳されてこなかったことから、創始者たちの思想と実践が、部分的にしか伝えられていないのではないかと懸念される。その意味で、本書はスヌーズレンの原点を正しく理解する上で貴重な文献であり、今後のわが国の福祉・医療・教育等の発展に大いに資すると考えられる。ここに本書を出版する意義がある。これまでわが国のスヌーズレンの専門書、あるいは学術書と呼べるものは、河本佳子氏の『スウェーデンのスヌーズレン』(新評論) とクリスタ・マーテンス博士の『スヌーズレンの基礎理論と実際』(訳書、大学教育出版) の2冊くらいである。今回本書を出版することは、これまでのわが国におけるスヌーズレンの理論や実践を検証する上で貴重であり、学術的にも価値があると考えられる。

原著が出版されて約30年経つがスヌーズレンは決して過去の遺物ではなく、現代のストレス社会に生きる子どもたちや大人のためのリラクゼーションや心の癒しを促すオアシスであり、さらに生活の質を高める取り組みとしても世界的に評価されてきたことから、今日のわが国の病者や障がい者などさまざまな人々の課題に応える新たなアプローチとして注目されている。

スヌーズレンは1970年代の中頃から重度知的障がい者に対して始められた比較的新しい活動である。対象はそれにとどまらず、本書では認知症者への適用などについても、スヌーズレンの創始者である著者は言及している。当時は、重度知的障がい者が楽しめる活動は皆無と言ってもよいような時代であった。そしてスヌーズレンの実践を通じて、特に、リラクゼーションや安らぎをもたらすことをとても重要視しており、また利用者と介助者との温かい人間関係づくりを大切にしている。私はこれまで国際スヌーズレン会議で何度か、大変温厚で優しいお人柄の2人の著者に、親しく接する機会に恵まれた。その心温かなおもてなしに深く感銘を受けた次第である。

2人の著者は、本書の中で、人間の持つ感覚である五感の重要性の説明から始まり、スヌーズレンの歴史や基本的な考え方、スヌーズレンの実践を行うまでのさまざまな有益な知見、特にスヌーズレンルームの設置の仕方や実践、器材や用具の紹介、さらにその使用方法や作り方に至るまで、自分たちの貴重な体験やその失敗の教訓に基づいて、私たちへの適切なアドバイスも含めてわかりやすく詳述している。本書は、スヌーズレンの原点となる創始者たちの基本的な考え方を理解する上で、またこれからスヌーズレンを学び実践しようとする人びとにとっても、最適な手引書といえるだろう。

本書の訳出は、「はじめに」から第3章『触覚の部屋』までを2011年度及び2012年度三重大学大学院教育学研究科特別支援教育専修の院生たち、正井千晶、水野勉、榎本大輔、北村京子、川崎詠美子、前川賢一の6名が下訳を担当した。第3章『聴覚の部屋』「ヘッドフォンとその代替手段の活用」から「フットチャイム」までを三重県伊勢市御薗小学校教諭の田村伊津子が、第3章『視覚の部屋』から『特に注意すべき点』及び第4章を独立行政法人国立特別支援教育総合研究所主任研究員の大崎博史がそれぞれ訳を担当した。「日本語版の序文」「目次」、第3章『聴覚の部屋』「概要」から「ヘッドフォン」、第5章、「参考文献」「著者紹介」を監訳者の姉崎弘が訳を担当した。また第6章から「おわりに」を三重県津市一志中学校教諭の正井千晶が訳を担当した。これらの下訳と訳を担当してくれた各氏に心からお礼を申し上げる。最後に、監訳者の姉崎弘は、各担当者の下訳と訳を何度も原文と丁寧に照合を行って見直し、適切な訳に修正を加えるとともに、「監訳者ま

えがき」と「『重度知的障がい者のここちよい時間と空間を創る スヌーズレンの世界』の解題」の執筆を行った。訳出にあたっては、特に、英語学の専門家である大和大学教育学部の中田康行教授並びに英文に造詣の深いチャーリーズ・エドワード・スクラグス、柳川優子ご夫妻に適切な助言と多くの支援をいただいた。心から感謝を申し上げたい。

そして、著者代表のアド・フェアフルは、本書の出版を快く承諾してくれただけではなく、解題を執筆するに際しても、私の数々の疑問にメールで丁寧な回答を寄せてくれた。その誠実な人柄に心から感謝を申し上げる。

思えば、翻訳作業を2011年4月に三重大学教育学研究科の院生たちと始め、遅々として進まなかつたが、4年の歳月を経てようやくここに翻訳を完成し、出版の運びとなつたことに感極まる思いである。この間、大学内外の多くの仕事を抱え、突然の親の介護も重なり、一時体調を崩したことわざつた。そのため翻訳を断念しかけたことも正直あった。そうした私を陰で妻の恭子がいつも見守り支え続けてくれた。本書の出版は妻の助力によるところが大である。妻に心から感謝する。

また監訳者として、原著に即してスヌーズレンの創始者たちが伝えたかった思いや意図をできるだけ忠実に訳文に反映するように努めたが、思わず誤訳や十分に意を尽くせなかつた箇所があるのではないかと懸念している。この点は、すべて監訳者の責任であるが、読者にご指摘、ご叱正をいただきたくお願いする次第である。

なお、今日スヌーズレンに関して用具の販売やスヌーズレンルームのデザインなどが商業的に行われているが、創始者のヤンとアドはいかなる企業や商業利益から独立しており、一切関係をもっていない。

最後に、本訳書の出版に際して、福村出版の宮下基幸常務取締役と編集部の小川史乃さんには、何度もご面倒をおかけしながらも、適切なご配慮とご支援をいただいた。ここに心から感謝を申し上げる次第である。

2015年4月30日

監訳者 姉崎 弘